

令和2年度 医療介護連携推進会議
コロナ禍で医療介護の連携や業務に困難を感じたこと、工夫したこと
アンケート調査結果報告

令和2年9月25日

大沢野・細入地域包括支援センター

【実施期間】 令和2年8月18日～9月11日

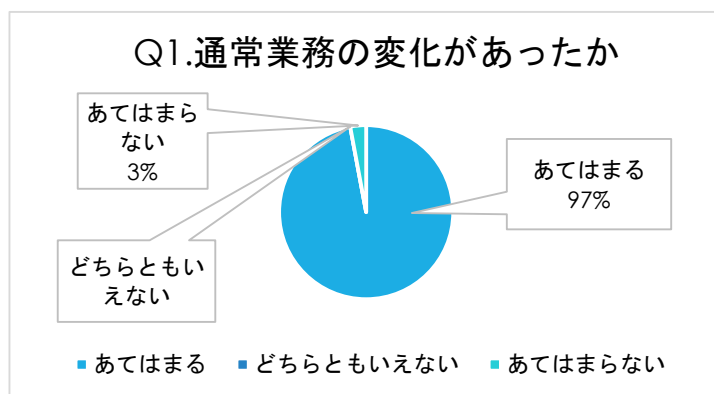
【実施地域】 大沢野・細入地域 / 富山市内（福祉用具事業所）

【配布回収数】 配布事業所数： 35
 回収数： 34 （回収率：97.1%）

事業所内訳	事業所数
訪問介護	3
訪問看護	2
通所介護（地域密着型、認知症対応型通所介護含む）	8
通所リハビリテーション	2
短期入所生活介護	5
小規模多機能型居宅介護	1
看護小規模多機能型居宅介護	1
居宅介護支援	6
地域包括	1
福祉用具	5
	34

Q1. 全国的な緊急事態宣言に伴い、行動自粛要請が出された際、通常業務時と違った対応となった部分がありましたか。また法人や事業所として何らかの対策や指示がありましたか。

※利用者や家族への対応、他機関との連携や往来等を含む。

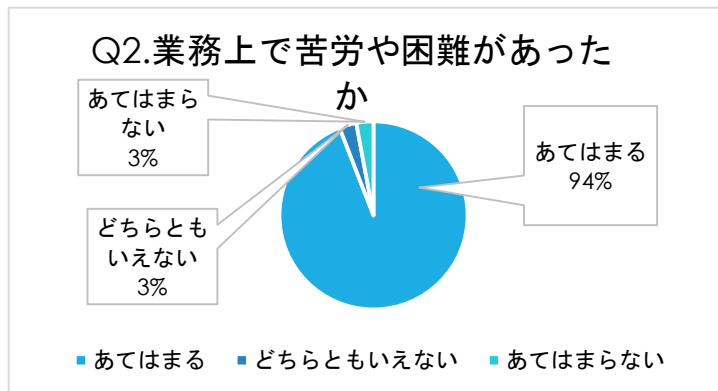


あてはまる	33
どちらともいえない	0
あてはまらない	1

自由記載（一部抜粋）

- ・衛生用品装着（マスク・手袋・ゴーグル・フェイスガード・エプロン等）、手指アルコール消毒（携帯）や毎朝の検温、事務所の頻回な換気実施。
- ・県外、飲食店、大型ショッピングセンター等の外出自粛、法人より買い物週2回までの指示あり。
- ・在宅勤務やテレワーク導入、利用者宅・事業所・病院等への訪問禁止、モニタリングや関係機関との連絡は電話やFAXメイン、訪問は玄関先で短時間とした。
- ・利用者のデイ利用回数の調整、他サービス事業所との併用禁止を依頼。
- ・サービス利用時の検温、デイ送迎者の人数調整（密を避けるため）、送迎車内の換気や消毒、施設内の立入や面会禁止、新規利用者の受け入れ中止、施設内の出来る範囲でのゾーン分け等を行った。

Q2. 緊急事態宣言発令中・解除後から現在において、業務上で苦労したことや困難だったことはありますか。



あてはまる	32
どちらともいえない	1
あてはまらない	1

自由記載（一部抜粋）

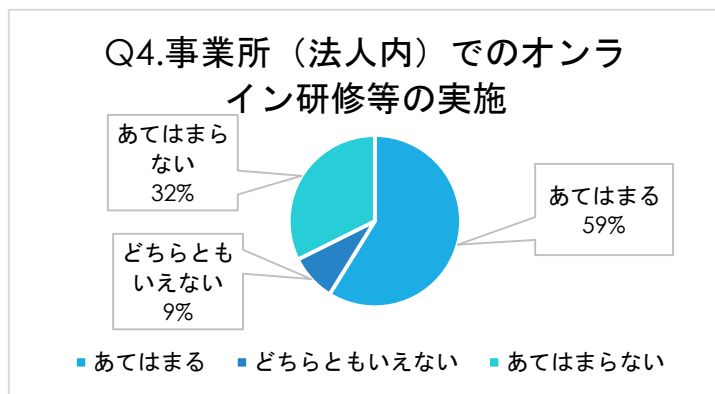
- ・ 県外の方と接触した利用者から接触があったと連絡がない、または隠される方がおり感染の不安があった。利用者の体調把握が不十分であり、訪問後に濃厚接触者と判明。
- ・ 利用者、家族にマスク着用が定着しない。（特に認知症の方）
- ・ テーブルにアクリル板を設置したが利用者から不評、不穩になった。
- ・ デイの利用制限で訪問介護提供依頼が増えたが、感染の不安からヘルパーを辞める人がおり人員不足、勤務時間が増えたりした。
- ・ 利用者訪問ができないため状態の把握がきちんとできない。
- ・ 新規のサービス利用ができない等でサービス導入に時間がかかる。

Q3. 緊急事態宣言発令中・解除後から現在において、業務上で工夫したこと、良かったこと、今後に活かせるのではないかと思ったこと等があれば具体的にご記入ください。
※他事業所の対応含む。

自由記載（一部抜粋）

- ・ 衛生用品(Q1同様)着用、検温、消毒薬使用や携帯等の感染予防対策が習慣化すると共に、職員の危機管理意識が向上した。
- ・ 密にならない空間づくり(事務所内、施設内、浴室や脱衣室、送迎車等)を意識する。
- ・ 施設内立入や面会禁止となる中、タブレットによる面会実施。また、手紙やメールでメッセージや写真付きの近況報告を行い、家族に安心感を持ってもらった。
- ・ 訪問時、マスクをされていない利用者や家族にマスクをつけて頂くようお願いする。持っていない方に使用して頂くためのマスクを持ち歩く。
- ・ ネット(とやま安心介護ネットワーク等)からの情報収集や共有。
- ・ 法人内の別棟に入る際は、名前や所属を台帳に記録した。
- ・ FAXのやり取りは情報の書き忘れや聞き間違いがなく、そのまま保存できて良かった。
- ・ 関連地域内での感染者の判明を书面や電話で速やかに知らせて頂いた。
- ・ テレワークやオンライン会議等が行える環境整備を行った。
- ・ 担当者会議、病院カンファレンス、家屋調査等をオンラインを活用して開催。
- ・ 訪問診療の利用者が、いつもと変わらない内容でオンライン診療が受けられた。

Q4. 貴事業所・または法人内でオンラインでの面会、研修、会議を実施されていますか。

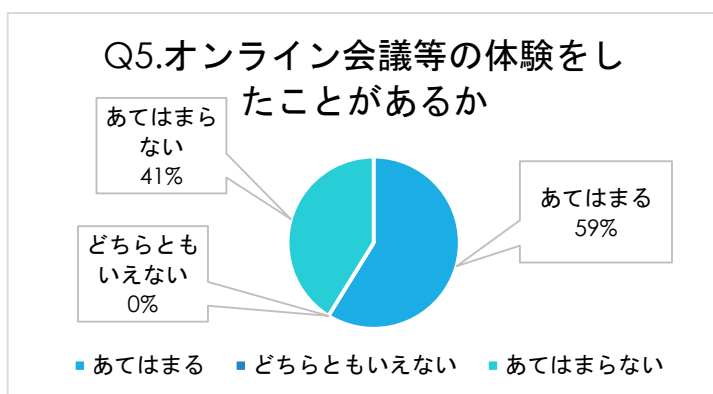


あてはまる	20
どちらともいえない	3
あてはまらない	11

自由記載（一部抜粋）

- ・ スカイプ、Chatworkでのテレビ会議。
- ・ チャットでの音声通話での会議。
- ・ Zoom、Webex meet、DVDでの研修、勉強会。
- ・ ラインビデオ通話、フェイスタイム、Zoomでの面会。

Q5. オンラインでの面会、研修、会議を体験、参加されたことはありますか。



あてはまる	20
どちらともいえない	0
あてはまらない	14

オンライン会議等のメリット、デメリットを具体的にご記入ください。

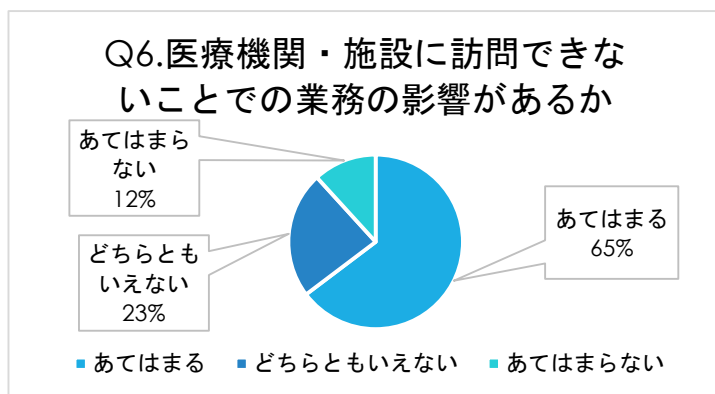
・ メリットについて 自由記載（一部抜粋）

- ・ 3密を避けられる、感染予防になる。
- ・ 時間コストの削減、時間通りに終了する。質問にチャット機能を利用するので分かりやすい。
- ・ オンラインでの面会は顔が見られるため、家族が安心される。

・ デメリットについて 自由記載（一部抜粋）

- ・ パソコンや機械操作が不慣れで困惑する。静かな個室等、環境を整えることが難しい。
- ・ 発言しにくい。会議そのものがただの連絡事項の伝達の場になってしまう。体験型の研修ができない。
- ・ オンライン面会后、不安定になられる利用者がおられた。高齢の家族は、利用方法が分からない。

Q6. 多くの医療機関・介護保険施設において、外部からの訪問を禁止していると思いますが、業務上不都合を感じていますか。

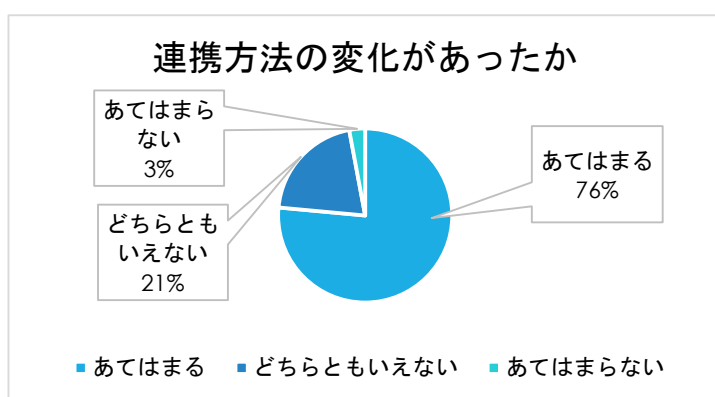


あてはまる	22
どちらともいえない	8
あてはまらない	4

自由記載（一部抜粋）

- ・利用者の引きこもりが続き、認知症の悪化、不穏行動、他者とのトラブル増加。
- ・入院中の様子がわからず、退院後のイメージがつきにくい。
- ・サービス利用中の様子がわからない。
- ・入所先を検討する際、施設見学ができない、入居の話が進まない。
- ・新規受け入れ利用者の面接が思うようにできない。
- ・コロナ感染症を疑われ、搬送先決定に時間がかかる。
- ・利用者、家族が直接の面会ができない。
- ・タブレット等の面会では耳の聞こえが悪い方は理解ができにくい。
- ・報告について、電話やFAXでは伝えきれない部分もある。
- ・福祉用具調整が必要な場合でも施設内に入れられないため、福祉用具のフィッティング状況がわからない。

Q7. 病院や施設、サービス事業所との連携方法に変化はありましたか。



あてはまる	26
どちらともいえない	7
あてはまらない	1

自由記載（一部抜粋）

- ・連携を兼ねて事業所を訪問して書類を渡していたが、FAXで送信するようになった。
- ・電話、郵送、FAXが増え、直接会っての話合いが激減した。
- ・担当者会議等、電話や書面での対応が増えた。書類を書く作業が増えた。

Q8. 今後もコロナウイルスを含む感染症予防対策を取りながらの業務になると思われますが、不安や心配なことはありますか。また得たい情報等がありますか。具体的にご記入ください。

自由記載（一部抜粋）

- ・いつ自分自身が感染者になってしまうか不安がある。
- ・県外からの家族の帰省がわかれば事前に教えてほしい。
- ・利用したい人でも受け入れ側の対策・対応によっては受け入れが出来ず、申し訳なく思う。他ではどのように対応しているのか。
- ・ショート利用者の定期通院時、病院での感染リスクが高くなるので心配。
- ・感染予防に対する消耗品が安定供給できるか心配。
- ・地域の感染チャートが分かればよい。法人や事業所ごとに対応のばらつきがあるので、情報の共有や協力できれば良い。
- ・他事業所の対応、取り組みを知りたい。
- ・感染者を出さない、感染者が出ても広げない環境づくりをしているつもりだが、実際のところわからない。
- ・利用者の中に感染者が出た場合の対応についてどうすればよいか。素早い対応ができるか心配。

Q9. 医療介護の連携について望むことや、このようにしていけたら良いのではないかとのご提案があれば具体的にご記入ください。

自由記載（一部抜粋）

- ・専門家から感染症に関する情報や指導を介護スタッフに提供してもらいたい。
- ・定期受診の際、事前に状態を電話若しくは書面にて報告し、可能な限り受診時間が短縮できれば良い。また、体調不良者に対して往診に切り替えて頂く等の柔軟な対応があれば良い。
- ・地域別の発症者数が分かるソースが欲しい。もっと感染者に関する情報を得たい。
- ・他事業所の対応等の情報を得たり、地域の他事業所と連携したい。
- ・担当者会議を再開する際、時間を決め密にならないよう計画が必要である。
- ・文書でのやり取りは利用者の状況や状態の共有が不十分。オンライン会議が実施できれば良いが、各事業所のネット環境の整備が課題であると思う。
- ・福祉・介護業界のデジタル化がコロナ禍を機に進んでほしい。

Q10. 皆さんに周知したいこと、案内、ご要望等があればご自由にお書きください。

自由記載（一部抜粋）

- ・いつかはかかる可能性が高いです。早いか遅いかだけです。発症者を蔑視しない地域であってほしいです。
- ・他事業所の取り組み等の情報を共有したり、地域の事業所間で協力し合い、予防策に取り組みたい。
- ・オンライン会議や研修等が活発化している。富山市全体でデジタル環境を整えば、利用者への支援や対応のレベルが向上すると思う。

お忙しい中、たくさんのご意見ありがとうございました。皆さまから頂いた貴重なご意見の全文は、ささづ苑ホームページ (<http://www.sasazuen.or.jp/>) に掲載しています。ぜひご覧ください。

これからも関係事業所の皆様と医療介護の連携、協力を図りながら地域の高齢者を支えていければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

